

平成26年度採択 領域開拓プログラム(公募型研究テーマ)

◆課題:

「行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開」

◆研究テーマ:

「生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成」

<研究代表者>

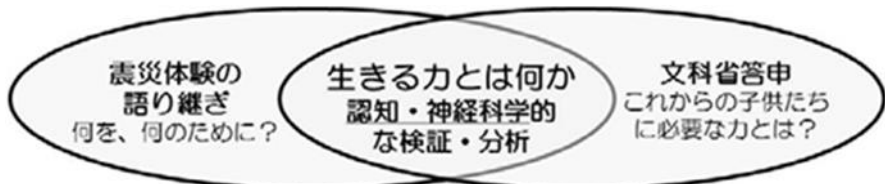
杉浦元亮: 東北大学加齢医学研究所
・災害科学国際研究所 / 教授

<専門分野> 認知神経科学

<Webページ> <http://www.hubs.idac.tohoku.ac.jp/>

<研究目的、概要>

本研究では危機を回避したり困難を克服したりするための人間の内的な力「生きる力」に関する実証的・学際的な研究の展開を目指した。具体的には「災害を生き抜く性格・考え方・習慣とは何か?」という問いに対する東日本大震災の被災者の様々な回答から、社会心理学的に抽出した「生きる力因子」について、認知・神経科学的な検証・分析を行い、その知見を災害一般教育の理論・実践に反映させる学問領域開拓を目指した。この研究は一面では東日本大震災の体験をいかに語り継ぐかという災害社会科学的課題への回答であり、また一面では中央教育審議会答申(1996)で「変化の激しいこれからの時代を生き抜く子供たち」に必要な生きる力をどう実証的に教育現場に実装するかという教育的な問いへの回答であるという点で、現在の日本の人文社会科学的課題の核心である。



<異分野間での研究プロジェクト運営>

本研究では生きる力という概念を、その背後にある認知・行動の神経的基盤を明らかにすることで実証的に定義し、既存の人文・社会科学アプローチの限界を打破することを目指した。その実現のために、全メンバーがゴールを見据え、各分野の限界を客観的に認識しながら話し合いを重ねた。

<研究成果、波及効果等>

本研究では災害を生きる力に関する調査データの詳細分析と論文化や、生きる力因子の認知科学的検討(危機回避文脈・困難克服文脈での機能的MRI実験)、生きる力を実証的に活用する新しい文理融合学問領域の開拓を行い、その成果は6本の論文、1篇の著作物、24件の講演、2件のシンポジウムに結実してた。様々な分野の研究者が連合して、生きる力に関する実証的・学際的な研究の展開のフィジビリティと研究体制・アプローチのいくつかの例を示すことに成功した。

これによって人間・社会・自然の全体的理解に向けた諸学の密接な連携や総合性を視野に入れた共同研究のモデルとして、今後関連学問分野への広い波及効果が期待される。本研究はその後、科学研究費補助金挑戦的研究(開拓)「災害を生きる力8因子の防災教育応用を目指した計測技術開発と原理解明研究」(2017-2020、杉浦元亮)に展開した。

